

健康 よもやま話



清水 明

「肘部管症候群」は肘の内側にある神経のトンネルが狭くなり、尺骨神経が締め付けられることにより起こる神経障害です。

症状は主にしびれですが、病状が進行すると筋力の低下がみられるようになります。肘を曲げたり、机に肘をついたりなどの動作時、睡眠時などに、小指と薬指の小指側部分にしびれが現れます。

症状が進むと、指で物をつまむ力や握力が弱くなりまゝです。さらに進行すると筋肉の痩せが出現し、薬指、小指を

小指、薬指のしびれに注意

伸ばしにくくなり、ワシの手のような変形を呈するようになります。

診察では、しびれの部位や筋力の評価、肘の内側にある神経を指で刺激してしびれを誘発させたりします。また電氣的に神経障害の程度を調べ、検査も行われます。

治療は、しびれの誘因になる動作を避けるなど局所の安静、ビタミン剤の投与などを行います。また症状が進行する場合は、神経の狭さを取り除く手術が行われます。

症状が進行してしまつと神経の回復が難しいと言われていますので、治療のタイミングが大切です。気になる方は早めに医療機関を受診しましょう。

（北國ドクタークラブ会員、いしづろクリニック院長＝金沢市）